



平成27年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成27年2月12日

上場会社名 株式会社KADOKAWA・DWANGO 上場取引所 東
 コード番号 9468 URL <http://info.kadokawadwango.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 佐藤 辰男
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 松原 眞樹 TEL 03-3549-6370
 四半期報告書提出予定日 平成27年2月13日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第1四半期の連結業績（平成26年10月1日～平成26年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第1四半期	49,715	—	1,851	—	2,603	—	26,078	—
26年3月期第1四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 27年3月期第1四半期 26,493百万円 (ー%) 26年3月期第1四半期 ー百万円 (ー%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第1四半期	373.89	370.79
26年3月期第1四半期	—	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
27年3月期第1四半期	189,655	115,538	60.4	1,617.73
26年3月期	—	—	—	—

(参考) 自己資本 27年3月期第1四半期 114,529百万円 26年3月期 ー百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	—	—	—	—
27年3月期	—	—	—	—	—

(注) 平成27年3月期の期末配当予想については未定としております。

3. 平成27年3月期の連結業績予想（平成26年10月1日～平成27年3月31日）

当社グループは変化の激しい経済環境のなか、さらなる成長を目指し事業構造の改革や新規事業への積極的進出を行なってまいります。このため、短期的な視野で企業活動の動向を見極めることは困難と判断いたしました。よって、平成27年3月期の連結業績予想については、合理的な算定が出来ないため記載しておりません。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	27年3月期1Q	70,892,060株	26年3月期	一株
② 期末自己株式数	27年3月期1Q	95,863株	26年3月期	一株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	27年3月期1Q	69,748,368株	26年3月期1Q	一株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

当社グループは変化の激しい経済環境のなか、さらなる成長を目指し事業構造の改革や新規事業への積極的進出を行なってまいります。このため、短期的な視野で企業活動の動向を見極めることは困難と判断いたしました。よって、平成27年3月期の連結業績予想については、合理的な算定が出来ないため記載していません。

また、当社は、共同株式移転の方法により、平成26年10月1日付で(株)KADOKAWAと(株)ドワンゴの完全親会社として設立されました。なお、当連結会計年度が第1期となるため、前期実績及び前年同四半期実績はありません。

四半期決算補足説明資料につきましては、当社ホームページに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社は、共同株式移転の方法により、平成26年10月1日に、㈱ドワンゴと㈱KADOKAWAの統合持株会社として発足いたしました。当社グループは、出版、映像分野で培った編集力とIPの創出により、ユニークコンテンツをマルチメディア展開しプレミアム化（収益を最大化）するノウハウと、高度なネットワーク技術から独自のネットサービスを生み出しリアルイベントと融合させるなど、ユニークなサービスを創出できる強みを有しております。

また、事業環境においては、出版や映像市場は前年実績を下回る厳しい傾向が続いていますが、スマートフォンやタブレット端末からSNSやゲーム、動画、電子書籍などの利用が拡大しております。

こうした状況下、出版、映像事業は構造改革を行い収益性を回復させる一方、電子書籍や動画、ゲームなどの成長するネットサービス領域においては、高い競争力を誇るコンテンツとネットワーク技術を最大限活用し、既存サービスのさらなる成長と、新しいビジネスの創造による事業の拡大を図っております。

各セグメント別の業績は以下のとおりです。なお、当連結会計年度が第1期となるため、前年度第1四半期実績はありません。

書籍IP事業においては、メディアミックス作品の展開や新規ジャンル商品の開発などを進める一方、変化の激しい市場規模に見合う最適な出荷を行うため、マーケティング強化や製作数適正化に取り組み、収益性の回復に努めております。

この度の経営統合に際して「ニコニコカドカワ祭り」を全国で展開し、ネットユーザーと書店ユーザーが相互に行き来するキャンペーンや、「niconico」のコンテンツをリアルに書店で再現する「ニコニコ書店会議」など様々な企画で書店店頭の活性化に取り組みました。

一方、確実に市場規模が拡大している電子書籍においても、直営の電子書籍ストア「BOOK☆WALKER」や外部の電子書籍ストアで「ニコニコカドカワ祭り」を実施。積極的な販売促進施策を行うことで、新規ユーザーの獲得と売上高の伸張を達成いたしました。

以上の結果、売上高は194億18百万円、セグメント利益（営業利益）は17億5百万円となりました。

情報メディア事業においては、雑誌の販売収入や広告売上の減少が続いており、引き続き不採算部門の整理や一層の合理化を進めています。また、ブランド力、企画力を生かした企業向け販促物の作成や急速に普及しているスマートフォン向けのサービス開発に注力し事業構造の転換を進めております。

以上の結果、売上高は80億22百万円、セグメント損失（営業損失）は4億37百万円となりました。

映像IP事業においては、製作・配給作品の規模は小・中型作品が中心でしたが、平成26年11月28日公開の映画「フューリー」は効率的なパブリシティ展開もありヒット作となりました。DVD、Blu-ray作品では「妖怪ウォッチ」シリーズが引き続き好調を持続しているほか、KADOKAWA原作のアニメ作品も売上に貢献しています。加えて、dアニメストアをはじめとする映像配信収入や海外映像版權販売も好調に推移いたしました。

以上の結果、売上高は82億39百万円、セグメント利益（営業利益）は8億17百万円となりました。

ポータル事業においては、「niconico」で「池袋ハロウィンコスプレフェス2014」を中継、ネット来場者数は2日間で25万6千人を超えたほか、ネット選挙活動が解禁されてから初となる衆議院選挙においては、各党代表者による「ネット第一声」や「党首討論会」「情勢分析」など様々な企画を実施し、衆院選関連番組の総視聴者数はのべ220万人に達しました。また、二次創作文化を推進する取り組み「クリエイター奨励プログラム」に㈱任天堂の著作物も対象となるなど、コンテンツの創出をバックアップする取り組みも充実させています。

これらの取り組みにより、平成26年12月末には登録会員数4,508万人、様々な特典が受けられる有料の「プレミアム会員」は241万人となりました。

以上の結果、売上高は48億10百万円、セグメント利益（営業利益）は7億31百万円となりました。

ライブ事業においては平成26年10月25日に「ニコニコ本社」が池袋P' PARCO地下1階、地下2階にリニューアル、グランドオープンとなり、「ニコぶくろ祭」と題したオープニングイベントは2日間で施設来場者2万5千人、ネット来場者数36万5千人の大盛況となりました。

また、「ニコニコ超会議」の海外出張版として、東南アジア最大のポップカルチャーイベント「AFA2014」内で「ニコニコ国会議inシンガポール」を初開催いたしました。

以上の結果、売上高は4億92百万円、セグメント損失（営業損失）は2億69百万円となりました。

モバイル事業においては、スマートフォン向けの高音質楽曲サービス「ダウンゴジェイピー」が人気グループ最新シングルの独占先行配信や「niconico」の人気ボカロ楽曲の充実など、独自サービスの拡充に努めました。

従来の携帯電話端末向けには、着うた®や着うたフル®を中心に業界トップクラスの品揃えと独自商品の提供でユーザー満足度の向上に努めておりますが、スマートフォンへの移行が進む環境下、会員数の減少傾向は続いております。

以上の結果、売上高は25億40百万円、セグメント利益（営業利益）は9億87百万円となりました。

ゲーム事業においては、(株)フロム・ソフトウェア、(株)スパイク・チュンソフト、(株)角川ゲームス、(株)MAGES. がパッケージゲームソフト及びネットワークゲームの企画・開発・販売をしており、「進撃の巨人～人類最後の翼～CHAIN」「ダービースタリオンGOLD」「艦隊これくしょん 一艦これ」などが売上に貢献いたしました。

以上の結果、売上高は40億21百万円、セグメント利益（営業利益）は2億40百万円となりました。

その他においては、キャラクター商品やアイドルCDのeコマース、アニメや「niconico」から生まれたコンテンツのCD販売や著作権利用料収入、クリエイティブ分野で活躍する人材を国内外で育成するスクール運営などが主な売上となっております。

以上の結果、売上高は34億47百万円、セグメント損失（営業損失）は1億63百万円となりました。

この結果、当期の連結業績は、売上高497億15百万円、営業利益18億51百万円、経常利益26億3百万円、特別利益で負ののれん発生益223億1百万円を計上したことにより、四半期純利益260億78百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、1,896億55百万円となりました。その主な内訳は、現金及び預金が337億3百万円、受取手形及び売掛金が481億76百万円など流動資産が1,101億73百万円、有形固定資産が346億70百万円、投資その他の資産332億68百万円など固定資産が794億82百万円であります。

負債は、741億16百万円となりました。その主な内訳は支払手形及び買掛金231億31百万円など流動負債が557億45百万円、長期借入金89億92百万円など固定負債が183億71百万円であります。

純資産は、1,155億38百万円となりました。その主な内訳は、資本金が206億25百万円、資本剰余金が653億86百万円、利益剰余金が281億53百万円など株主資本合計が1,139億71百万円であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループは変化の激しい経済環境のなか、さらなる成長を目指し事業構造の改革や新規事業への積極的進出を行なっており、このため、短期的な視野で企業活動の動向を見極めることは困難と判断いたしました。よって、平成27年3月期の連結業績予想については、合理的な算定が出来ないため記載しておりません。

2. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

		当第1 四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金		33,703
受取手形及び売掛金		48,176
たな卸資産		15,816
その他		12,516
貸倒引当金		△40
流動資産合計		110,173
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）		7,992
工具、器具及び備品（純額）		3,121
土地		19,047
その他（純額）		4,508
有形固定資産合計		34,670
無形固定資産		
のれん		5,935
その他		5,607
無形固定資産合計		11,542
投資その他の資産		
投資有価証券		21,232
その他		12,176
貸倒引当金		△140
投資その他の資産合計		33,268
固定資産合計		79,482
資産合計		189,655

(単位：百万円)

当第1四半期連結会計期間
(平成26年12月31日)

負債の部	
流動負債	
支払手形及び買掛金	23,131
短期借入金	2,118
1年内償還予定の社債	18
賞与引当金	950
ポイント引当金	40
返品引当金	8,637
その他	20,848
流動負債合計	55,745
固定負債	
長期借入金	8,992
退職給付に係る負債	3,303
その他	6,075
固定負債合計	18,371
負債合計	74,116
純資産の部	
株主資本	
資本金	20,625
資本剰余金	65,386
利益剰余金	28,153
自己株式	△192
株主資本合計	113,971
その他の包括利益累計額	
その他有価証券評価差額金	△186
為替換算調整勘定	743
その他の包括利益累計額合計	557
少数株主持分	1,009
純資産合計	115,538
負債純資産合計	189,655

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年10月1日 至平成26年12月31日)
売上高	49,715
売上原価	35,314
売上総利益	14,400
販売費及び一般管理費	12,548
営業利益	1,851
営業外収益	
受取利息	4
受取配当金	128
持分法による投資利益	170
為替差益	423
その他	44
営業外収益合計	771
営業外費用	
支払利息	13
その他	6
営業外費用合計	19
経常利益	2,603
特別利益	
負ののれん発生益	22,301
その他	215
特別利益合計	22,516
特別損失	
減損損失	162
特別損失合計	162
税金等調整前四半期純利益	24,958
法人税等	△1,145
少数株主損益調整前四半期純利益	26,103
少数株主利益	25
四半期純利益	26,078

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	当第1四半期連結累計期間 (自 平成26年10月1日 至 平成26年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	26,103
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	△375
為替換算調整勘定	676
持分法適用会社に対する持分相当額	88
その他の包括利益合計	389
四半期包括利益	26,493
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	26,446
少数株主に係る四半期包括利益	47

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、共同株式移転の方法により、平成26年10月1日付で㈱KADOKAWAと㈱ドワンゴの完全親会社として設立されました。また、当第1四半期連結累計期間に自己株式の一部を消却いたしました。

これらの結果、当第1四半期連結会計期間末において資本金が20,625百万円、資本剰余金が65,386百万円、利益剰余金が28,153百万円、自己株式が△192百万円となっております。

(セグメント情報等)

当第1四半期連結累計期間(自 平成26年10月1日 至 平成26年12月31日)

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、製品・サービス別の部門及び子会社を置き、各部門及び子会社は、取り扱う製品・サービスについて包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社は、部門及び子会社を基礎とした製品・サービス別のセグメントから構成されており、「書籍IP事業」、「情報メディア事業」、「映像IP事業」、「ポータル事業」、「ライブ事業」、「モバイル事業」、「ゲーム事業」の7つを報告セグメントとしております。

書籍IP事業	書籍、電子書籍の出版・販売等
情報メディア事業	雑誌の出版、雑誌及びWeb広告の販売等
映像IP事業	DVD等のパッケージソフトの販売、映画の企画・製作・配給等
ポータル事業	動画コミュニティサイトの運営等
ライブ事業	各種イベントの企画・運営、イベント会場の賃貸等
モバイル事業	モバイルコンテンツ配信等
ゲーム事業	ゲームソフトウェア及びネットワークゲームの企画・開発・販売等

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					
	書籍IP事業	情報メディア事業	映像IP事業	ポータル事業	ライブ事業	モバイル事業
売上高						
外部顧客への売上高	18,989	7,985	7,664	4,783	488	2,538
セグメント間の内部売上高又は振替高	429	36	574	27	4	1
計	19,418	8,022	8,239	4,810	492	2,540
セグメント利益又は損失(△)	1,705	△437	817	731	△269	987

	報告セグメント		その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 3
	ゲーム事業	計				
売上高						
外部顧客への売上高	3,977	46,427	3,285	49,712	2	49,715
セグメント間の内部売上高又は振替高	44	1,119	162	1,281	△1,281	—
計	4,021	47,546	3,447	50,993	△1,278	49,715
セグメント利益又は損失(△)	240	3,775	△163	3,611	△1,759	1,851

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、グッズ販売等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△1,759百万円の主な内訳は、セグメント間取引消去21百万円、各報告セグメントに配分していない全社収益260百万円、全社費用△2,041百万円であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 報告セグメントごとの資産に関する情報

(子会社の取得による資産の著しい増加)

当第1四半期連結会計期間において、㈱バンタンの株式を取得し、連結の範囲に含めたことにより、「その他」において資産の金額が14,370百万円増加しております。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

当第1四半期連結会計期間に、「書籍IP事業」セグメントにおいて㈱トリスタの株式を取得し、「その他」において㈱バンタンの株式を取得し、それぞれを連結子会社としました。

なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第1四半期連結累計期間において「書籍IP事業」で1,682百万円、「その他」において3,434百万円であります。

(重要な負ののれん発生益)

当社は平成26年10月1日に㈱KADOKAWAと㈱ドワンゴが経営統合し、両社の完全親会社となる共同持株会社として設立されました。これに伴い、負ののれん22,301百万円が発生し、当第1四半期累計期間において特別利益(負ののれん発生益)に計上しております。

(重要な後発事象)

連結子会社におけるセカンドキャリア支援プログラムの実施

当社連結子会社の㈱KADOKAWAは、平成27年1月16日開催の同社臨時取締役会において、下記のとおり、セカンドキャリア支援プログラムの実施を決議しました。

(1) 実施の理由

㈱KADOKAWAを取り巻く事業環境は、出版市場が継続的に縮小するとともに、社会全般のデジタル化進展に伴って消費者のコンテンツニーズが急激に変化しています。また、同社は、企業再編（買収、合併、分割）を、数次にわたって実施してきた経緯があり、平成25年10月に実施したグループ内大型合併後の現時点では、業務の重複、人員の偏在等が存在する状態にあります。このような内外の環境下、同社は、①消費者ニーズに応えた優良コンテンツを適時に創出し、メディアミックス等の手段によって、コンテンツのプレミアム化を図る。②社会のデジタル化進展に対応して、電子書籍、電子配信、デジタル雑誌・広告事業、ゲーム事業等のメディア力の強化を図る。③アジアを主体とした海外事業を強化する。の3点を、成長領域とする基本戦略を定めて、事業を推進しております。特に、デジタル分野では、平成26年10月に経営統合した㈱ドワンゴと緊密に連携することで、新たなビジネスモデルの創出による収益力の強化を目指しております。今般、同社は、基本戦略の着実な実行による収益力の強化と、それがもたらす将来の成長を、より確実なものとするためには、より強い組織・人員体制の構築が必須であると判断し、その目的達成の手段のひとつとして、セカンドキャリア支援プログラムを実施することを決議しました。

(2) 制度の概要

- ①募集対象者：平成27年3月31日時点で満年齢41歳以上かつ勤続年数5年以上の正社員
- ②募集人員数：300名程度
- ③募集期間：平成27年3月2日から平成27年3月20日まで
- ④退職日：平成27年4月30日（予定）
- ⑤優遇措置：特別支援金の支給及び支援会社を通じた再就職支援

(3) 損失の見込額

特別支援金の支給や再就職支援等の支出費用は、平成27年3月期の当社連結決算及び同社個別決算において、特別損失に計上する予定ですが、現時点では、応募者数等が未確定であり、損失の見込額を見積もることが困難なため、記載しておりません。